

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年2月12日
【四半期会計期間】	第28期第2四半期（自平成27年10月1日至平成27年12月31日）
【会社名】	株式会社ランシステム
【英訳名】	RUNSYSTEM CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 日高 大輔
【本店の所在の場所】	埼玉県狭山市狭山台4丁目27番地の38 （同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。）
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	東京都豊島区池袋2丁目43番1号（東京本社）
【電話番号】	03（6907）8111（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 面高 英雄
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第28期 第2四半期 連結累計期間
会計期間		自平成27年7月1日 至平成27年12月31日
売上高	(千円)	4,107,166
経常利益	(千円)	109,086
親会社株主に帰属する 四半期純利益	(千円)	26,175
四半期包括利益	(千円)	24,695
純資産額	(千円)	2,012,851
総資産額	(千円)	4,790,569
1株当たり四半期純利益金額	(円)	12.83
潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額	(円)	-
自己資本比率	(%)	42.0
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	245,531
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	240,902
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	41,089
現金及び現金同等物の 四半期末残高	(千円)	515,704

回次		第28期第2四半期連結会計期間
会計期間		自平成27年10月1日 至平成27年12月31日
1株当たり四半期純損失金額	(円)	17.30

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 当社は、当第2四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度の経営指標等については、記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)は、株式会社ランウェルネスを設立し、児童発達支援事業及び放課後等デイサービス事業を開始しております。この結果、当社の関係会社は子会社が1社になっております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府による経済政策を背景として、外国人観光客のインバウンド需要の拡大、企業収益や雇用情勢の改善など緩やかな回復基調となった一方で、中国経済をはじめとした海外景気の減速や原油価格の下落などが見られ、先行き不透明な状況となっております。

このような経営環境のもと、当社グループは「顧客満足の追及と基本の徹底」を念頭に店舗環境の改善に注力し、新規業態店舗や新規取引の開拓に取組み、新たな収益創出に向けた組織力の向上に努めて参りました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高4,107百万円、営業利益107百万円、経常利益109百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益26百万円となりました。

セグメントごとの状況は次のとおりであります。

<店舗運営事業>

当事業につきましては、複合カフェ「スペースクリエイティブ自遊空間」チェーンにおいて設備やサービスの拡充、イベントの企画運営を図り、集客力の高い店舗開発と、より快適な空間を提供できるよう一層のサービス向上に努めております。店内設備においては、日々のお客様のニーズに合った環境を整えるため店内の改装を実施し、デラックスブース等の稼働率の高いブースに入れ替えを行っております。また、人気コンテンツである最新オンラインゲームやカラオケ、ダーツの最新機種を導入によって常に新鮮な店内環境を構築しております。ダーツやビリヤードのイベント・大会を定期的開催し、コミュニティの活性化を目指して近隣店舗との合同開催による企画も実施しております。加えて、スマートフォン向け会員証アプリとスマートフォン向けゲームアプリ「どうぶつのオーケストラ SMASH×SMASH」、「がんばれ！ルルロロ レスキュー大作戦！」の連繋によって、ゲームを遊ぶと自遊空間店舗がお得に利用できるクーポンがもらえるキャンペーン等を継続的に展開しております。

サービスの質的向上を図るために「基本の徹底」を念頭におき、店舗スタッフのサービスレベル、ホスピタリティレベル向上のための教育と研修を実施し、店舗でのOJTや講義を通じて従業員の接客力底上げに注力しております。

平成27年7月に新宿にオープンした「アミューズメントカジノ ジクー」は「for the good smile」を基本コンセプトとした店舗で、ポーカーやブラックジャック等のカジノゲームを通して、コミュニケーションを創出する新たなアミューズメントスポットとして運営しております。ポーカー大会の予選会場や貸切パーティー会場としての利用も促進し、カジノゲームが初めての方も本格的にプレイする方も幅広く楽しんで頂ける店舗です。

平成27年9月に自遊空間アーバン札幌店の一部をリニューアルし、アニメ「エヴァンゲリオン」の世界観をイメージしたコンセプトカフェ「自遊空間アーバン札幌feat.EVANGELION」をオープンいたしました。店内では、オリジナルメニューを提供する飲食スペースを中心にエヴァンゲリオングッズの販売も行っております。国内外の作品ファンにアピールする企画を随時展開しております。

今後も当社は新規事業の開発・出店に注力し、自遊空間事業に続く主力事業の構築を目指して参ります。

当第2四半期連結会計期間末時点では180店舗（直営店舗69、FC加盟店舗111）となりました。

以上の結果、当セグメント全体の売上高は3,657百万円、セグメント利益は236百万円となりました。

<不動産事業>

当事業につきましては、不動産賃貸物件の適切な管理に注力し、計画通りの売上推移となりました。

以上の結果、当セグメント全体の売上高は189百万円、セグメント利益は45百万円となりました。

上記事業の他に、システム等の外販事業及びメディア広告事業、子会社である株式会社ランウェルネスにおいて児童発達支援事業及び放課後等デイサービス事業を運営しております。システム等の外販事業では、入会システム、会員管理システム等を販売しております。メディア広告事業では、主に自遊空間店内外における広告営業やスマートフォン向けアプリの開発及びアプリを活用したサービスを実施しております。児童発達支援事業、放課後等

デイサービス事業では、放課後等デイサービス施設「ハッピーキッズスペースみんと」を設立し、児童・生徒の発達支援に関するサービスを行っております。

(注)当社は、当第2四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較は行っておりません。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、515百万円となり、前事業年度末と比較して36百万円減少しました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は245百万円となりました。これは主に、減価償却費203百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は240百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出263百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は41百万円となりました。これは主に、短期借入れによる収入300百万円及び長期借入れによる収入200百万円等により資金が増加した一方、短期借入金の返済による支出300百万円及び長期借入金の返済による支出231百万円等により資金が減少したことによるものであります。

(3) 事実上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	6,360,000
計	6,360,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成27年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成28年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,070,900	2,070,900	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	2,070,900	2,070,900	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年10月1日～ 平成27年12月31日	-	2,070,900	-	803,314	-	841,559

(6)【大株主の状況】

平成27年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合 (%)
田中久江	東京都練馬区	350,400	16.92
GAUDI株式会社	神奈川県平塚市宝町5-27	290,600	14.03
プラザ商事株式会社	神奈川県横浜市中区羽衣町2丁目5-15	286,000	13.81
石橋一浩	千葉県船橋市	63,550	3.07
大鐘産業株式会社	神奈川県横浜市中区羽衣町2丁目5-15	44,000	2.12
平楽商事株式会社	神奈川県横浜市中区羽衣町2丁目5-15	44,000	2.12
平川正一	神奈川県横浜市	44,000	2.12
綾部健太郎	長崎県長崎市	25,500	1.23
木下圭一郎	東京都千代田区	25,100	1.21
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6-1	22,900	1.11
計	-	1,196,050	57.76

(注)上記のほか、自己株式が30,300株あります。

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 30,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,040,300	20,403	-
単元未満株式	普通株式 300	-	-
発行済株式総数	2,070,900	-	-
総株主の議決権	-	20,403	-

【自己株式等】

平成27年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ランシステム	埼玉県狭山市狭山台 4丁目27番地の38	30,300		30,300	1.46
計		30,300		30,300	1.46

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

なお、当第2四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、比較情報は記載しておりません。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年7月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、アスカ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間
(平成27年12月31日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	665,704
売掛金	236,956
商品及び製品	192,317
原材料及び貯蔵品	47,896
その他	247,198
貸倒引当金	2,490
流動資産合計	1,387,582
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物(純額)	1,018,108
工具、器具及び備品(純額)	318,702
土地	769,143
その他	8,067
有形固定資産合計	2,114,022
無形固定資産	
203,218	
投資その他の資産	
敷金	866,287
その他	270,249
貸倒引当金	50,790
投資その他の資産合計	1,085,745
固定資産合計	3,402,987
資産合計	4,790,569
負債の部	
流動負債	
買掛金	259,330
短期借入金	150,000
1年内返済予定の長期借入金	442,736
未払法人税等	59,996
その他	334,344
流動負債合計	1,246,407
固定負債	
長期借入金	1,080,629
資産除去債務	199,318
その他	251,362
固定負債合計	1,531,310
負債合計	2,777,718
純資産の部	
株主資本	
資本金	803,314
資本剰余金	841,559
利益剰余金	393,897
自己株式	23,969
株主資本合計	2,014,802
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	1,951
その他の包括利益累計額合計	1,951
純資産合計	2,012,851
負債純資産合計	4,790,569

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 千円)

	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 7月 1 日 至 平成27年12月31日)
売上高	4,107,166
売上原価	3,450,196
売上総利益	656,969
販売費及び一般管理費	549,586
営業利益	107,383
営業外収益	
受取利息	1,009
販売手数料収入	8,809
その他	695
営業外収益合計	10,514
営業外費用	
支払利息	7,884
その他	927
営業外費用合計	8,812
経常利益	109,086
特別利益	
固定資産売却益	651
特別利益合計	651
特別損失	
固定資産売却損	913
固定資産除却損	1,757
減損損失	35,697
特別損失合計	38,368
税金等調整前四半期純利益	71,368
法人税等	45,193
四半期純利益	26,175
非支配株主に帰属する四半期純利益	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	26,175

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間
(自平成27年7月1日
至平成27年12月31日)

四半期純利益	26,175
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	1,479
その他の包括利益合計	1,479
四半期包括利益	24,695
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	24,695
非支配株主に係る四半期包括利益	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第2 四半期連結累計期間
(自 平成27年7月1日
至 平成27年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	71,368
減価償却費	203,346
減損損失	35,697
のれん償却額	5,457
固定資産売却損益(は益)	262
固定資産除却損	1,757
貸倒引当金の増減額(は減少)	490
受取利息及び受取配当金	1,009
支払利息	7,884
売上債権の増減額(は増加)	25,798
たな卸資産の増減額(は増加)	8,209
仕入債務の増減額(は減少)	75,360
未払金の増減額(は減少)	11,533
未払消費税等の増減額(は減少)	64,616
前受収益の増減額(は減少)	5,484
その他の資産の増減額(は増加)	9,062
その他の負債の増減額(は減少)	16,588
その他	9,047
小計	323,633
利息及び配当金の受取額	93
利息の支払額	7,356
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	70,838
営業活動によるキャッシュ・フロー	245,531
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の払戻による収入	90,000
有形固定資産の取得による支出	263,927
有形固定資産の売却による収入	1,091
無形固定資産の取得による支出	27,651
資産除去債務の履行による支出	9,250
敷金の差入による支出	26,360
敷金の回収による収入	7,375
長期預り金の受入による収入	6,780
長期預り金の返還による支出	18,600
その他	359
投資活動によるキャッシュ・フロー	240,902
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	300,000
短期借入金の返済による支出	300,000
長期借入れによる収入	200,000
長期借入金の返済による支出	231,089
社債の償還による支出	10,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	41,089
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	36,459
現金及び現金同等物の期首残高	552,164
現金及び現金同等物の四半期末残高	515,704

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

当第2四半期連結会計期間より、新たに設立した株式会社ランウェルネスを連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)
給料手当・賞与	219,040千円
貸倒引当金繰入額	490

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)
現金及び預金勘定	665,704千円
担保提供定期預金	150,000
現金及び現金同等物	515,704

(株主資本等関係)

当第2四半期連結累計期間(自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	店舗運営 事業	不動産 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,657,010	189,369	3,846,379	260,786	4,107,166	-	4,107,166
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,344	1,250	2,595	-	2,595	2,595	-
計	3,658,355	190,619	3,848,974	260,786	4,109,761	2,595	4,107,166
セグメント利益	236,355	45,451	281,807	31,646	313,454	206,071	107,383

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム等の外販事業、メディア広告事業、児童発達支援事業及び放課後等デイサービス事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額 206,071千円には、セグメント間取引消去 601千円及び各報告セグメントに配分しない全社費用 205,469千円が含まれております。全社費用には、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「店舗運営事業」セグメントにおいて、継続的に営業損失を計上し収益性が低下している店舗について減損損失を認識しております。当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては、35,697千円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	12円83銭
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	26,175
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	26,175
普通株式の期中平均株式数(株)	2,040,600

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年2月9日

株式会社ランシステム

取締役会 御中

アスカ監査法人

指定社員 公認会計士 若尾 典邦 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 石渡 裕一朗 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ランシステムの平成27年7月1日から平成28年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年7月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ランシステム及び連結子会社の平成27年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。